



OnTime[®] GROUP CALENDAR

for Microsoft(Ver.5.3-)

SQL Server 手動インストールマニュアル
クイック & ステップ バイ ステップ

OnTime Group Calendar Direct Shop

2022/10/03

目次



• はじめに	p.3
• 手動インストール	p.4
• SQL Serverインストールセンターの起動	p.4
• SQL Server セットアップの起動	p.6
• SQL Server セットアップ(機能の選択)	p.10
• 構成マネージャーの起動	p.20

はじめに



- OnTimeはメールボックス数が2000程度であればSQL Server Expressで充分動作可能です。
- SQL Server Expressをご利用になるならSQL Server Express 2019のインストールパッケージと構成ファイルから構成されるサイレントインストールファイルをダウンロード出来るようご準備しています。
※以前のSQL2016インストールパッケージからの2019アップグレード用のファイルも同梱してあります。
- 詳細は「OnTime for Microsoft セットアップマニュアル クイック & ステップバイステップ」をご参照ください。
- 本マニュアルは OnTime(Tomcat) と SQL Server を同じ Windows Server 上にインストールする場合を想定して作成されています。この構成はメーカーとしても推奨いたします。
- SQL Server のインストールにおいて本マニュアルはあくまでもパラメータのご紹介を目的としており、実際のインストールはメーカーの推薦手順を優先してください。
- 本マニュアルは SQL Server のEditionがExpress以外のインストールをご紹介する目的であり、OnTimeのインストールについては「OnTime for Microsoft セットアップマニュアル クイック & ステップバイステップ」に準拠いたしますので事前に必ずご一読ください。

SQL Serverインストールセンターからインストールします



- インストール ウィザードから SQL Server インストール センターの起動する画面まで進めてください。
- もしくは既にメディアからのインストールが完了している場合は Windows メニューから SQL Server インストール センターを実行します。
- SQL Server の新しいインストールを作成するには、左側のナビゲーション領域の [インストール] を選択します。

※EXPRESSからStandardへのEditionの変更は[メンテナンス]から変更可能です。

新規スタンドアロンインストールをクリックします



- [SQL Server の新規スタンドアロン インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加] を選択します。

プロダクトキー



SQL Server 2017 セットアップ

プロダクト キー

インストールする SQL Server 2017 のエディションを指定します。

プロダクトキー

ライセンス条項
グローバル ルール
Microsoft Update
製品の更新プログラム
セットアップ ファイルのインストール
インストール ルール
機能の選択
機能ルール
機能構成ルール
インストールの準備完了
インストールの進行状況
完了

Microsoft Certificate of Authenticity または製品パッケージに記載されている 25 文字のキーを入力して、SQL Server 2017 のこのインスタンスを検証してください。または、SQL Server の無償のエディション (Developer, Evaluation, Express) を指定することもできます。SQL Server オンライン ブックに記載されているように、Evaluation には SQL Server の機能が最も多く含まれており、180 日間の有効期限付きでアクティブ化されます。Developer エディションには有効期限がなく、含まれる機能は Evaluation と同じですが、非運用環境でのデータベース アプリケーション開発の目的に限りライセンスが付与されます。インストールされているエディションから別のエディションにアップグレードするには、エディション アップグレード ウィザードを実行してください。

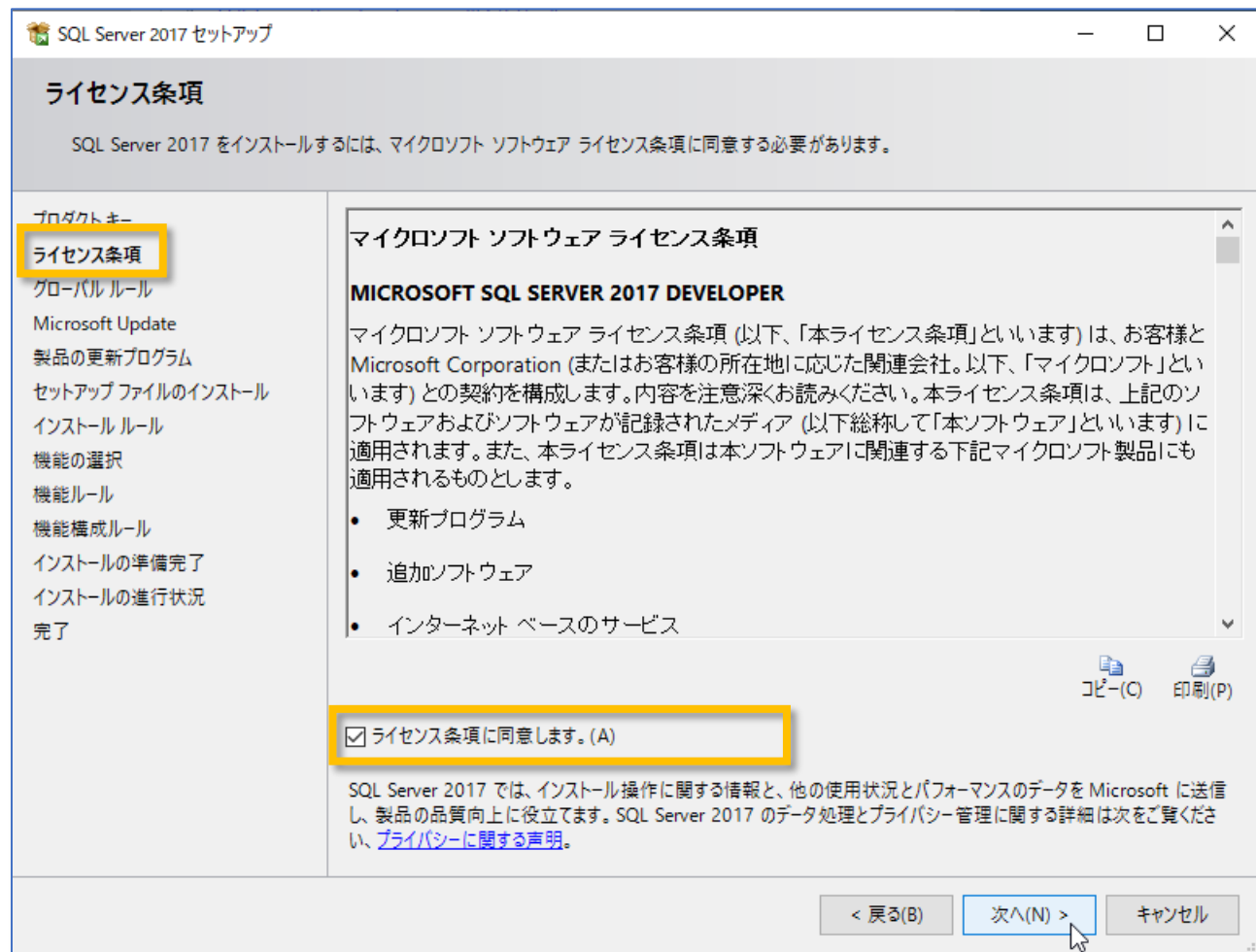
☒ 無償のエディションを指定する(S):
Developer

☐ プロダクト キーを入力する(E):

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

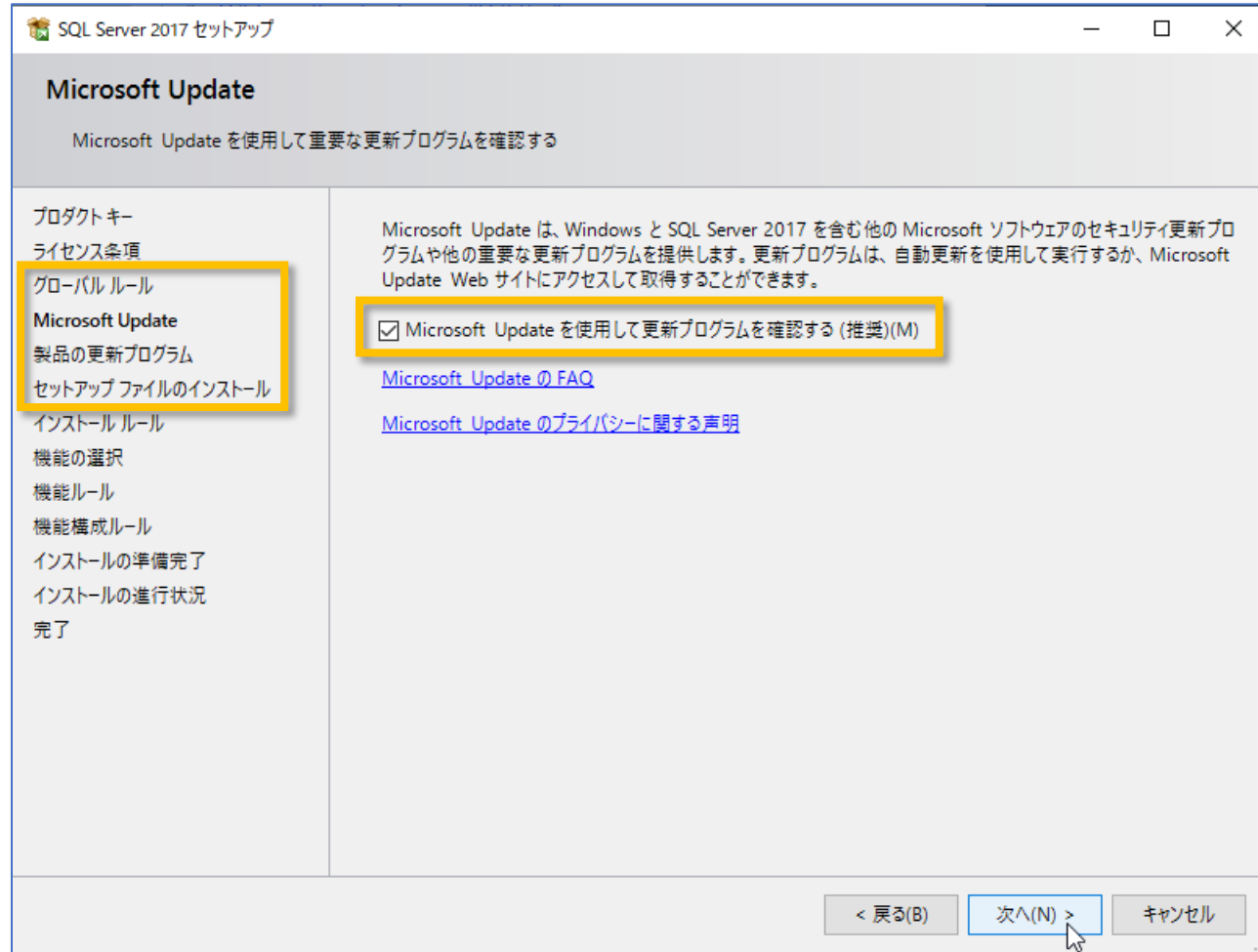
- SQL Server セットアップが起動します。
- 最初に[プロダクトキーを入力する]を選択し、購入または保有するプロダクトキーを入力します。
- (注意)
本マニュアルでは無償のDeveloperエディションを使用して実行手順を紹介しています。本番環境では必ずプロダクトキーを入力してください。

ライセンス条項



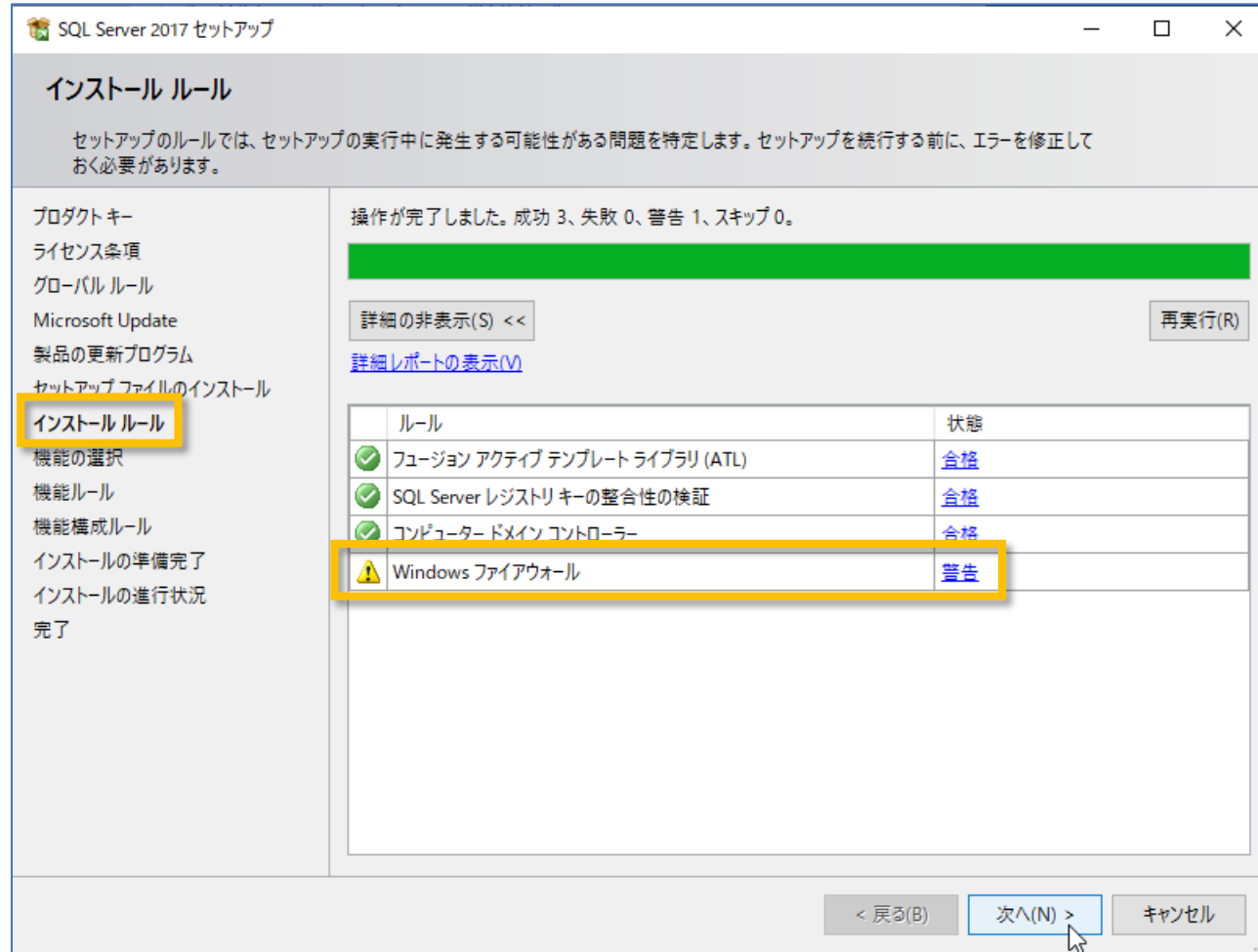
- ライセンス条項を確認し、同意する場合は、[ライセンス条項とプライバシーに関する声明に同意します] チェック ボックスをオンにして、[次へ] を選択します。

Microsoft Update



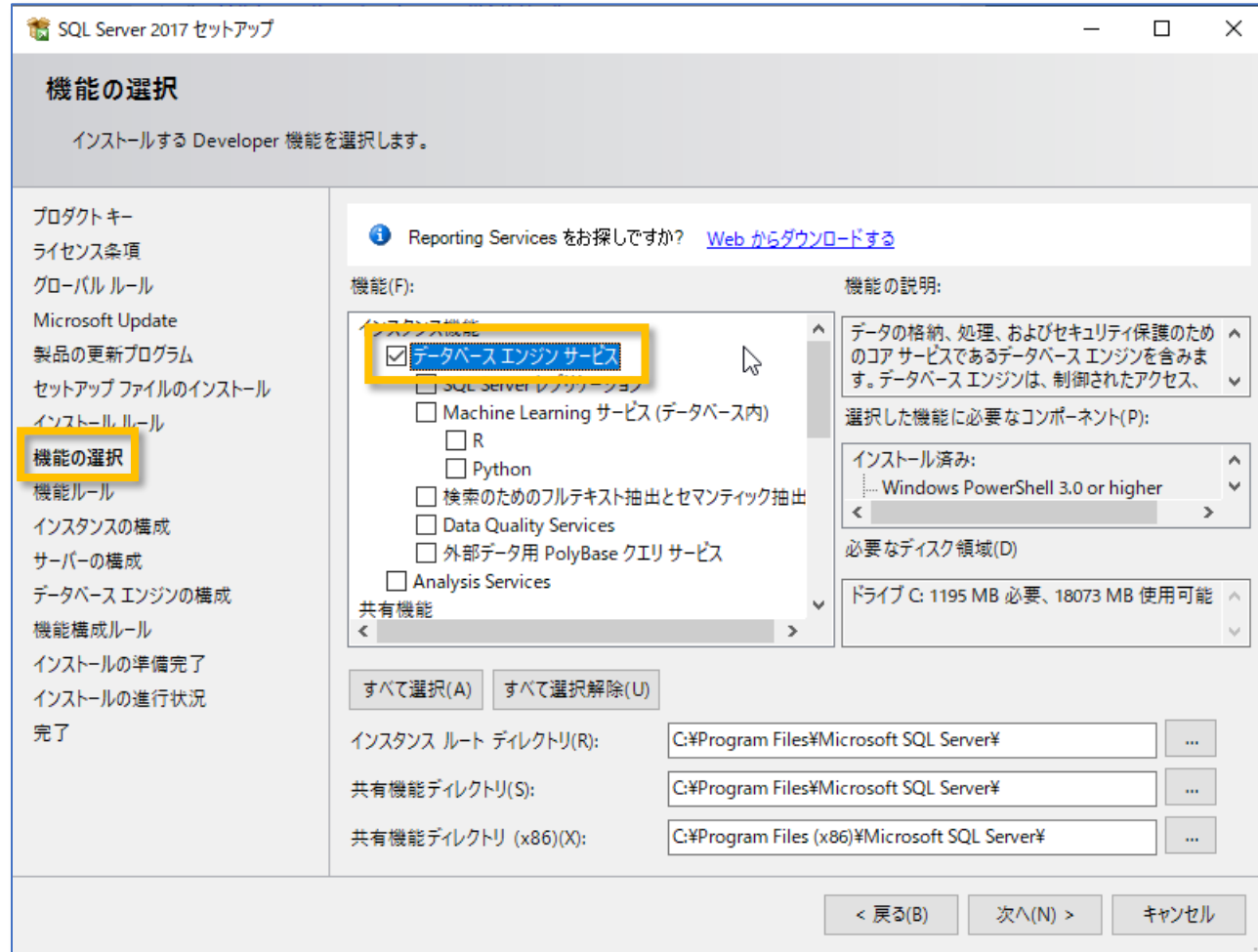
- [グローバル ルール] では、ルール エラーがない場合は自動的に次のページに進みます。
- OSの [Windows Update]の設定で [Microsoft Update] がオフになっている場合にMicrosoft Updateの確認が行われます。自社のポリシーにあわせ、チェックボックスを設定し、[次へ]を選択します。
- [製品の更新プログラム] では、製品の更新プログラムが検出されない場合は自動的に次のページに進みます。
- [セットアップ ファイルのインストール] では、更新プログラム含む追加に必要なファイルが見つからない場合は自動的に次のページに進みます。

インストール ルール



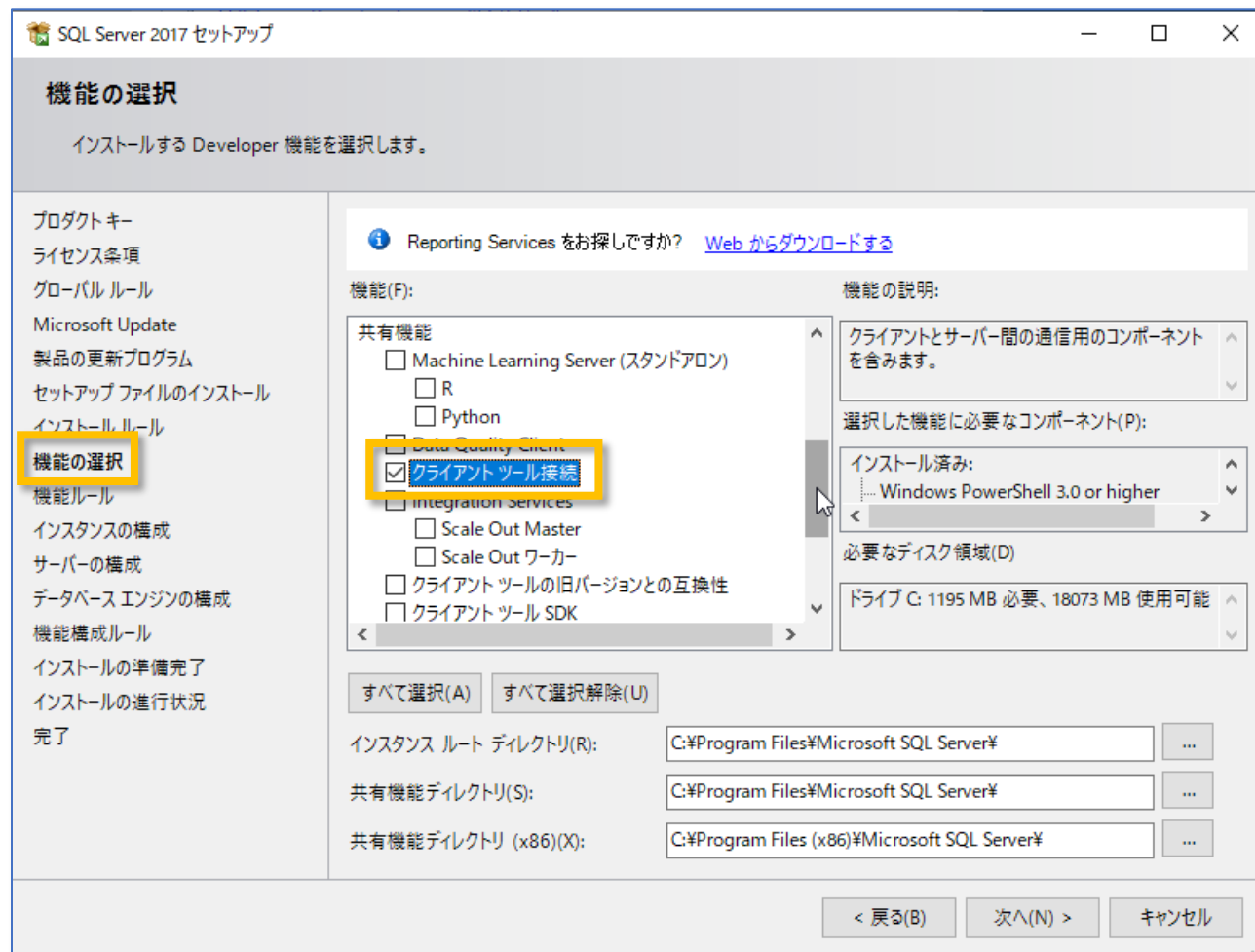
- [インストール ルール] ページでは、セットアップの実行中に発生する可能性がある潜在的な問題に関するチェックが行われます。
- いずれかで合格していない場合は正常に動作しない可能性があります。対応できる管理者にご相談ください。
- 左図ではWindows ファイアウォールが警告となっていますが、これはSQLサーバーが必要とするポートが開いていないからです。今回はOnTimeと同一サーバー上にインストールするので必要ありません。
- [次へ] を選択します。

機能の選択1



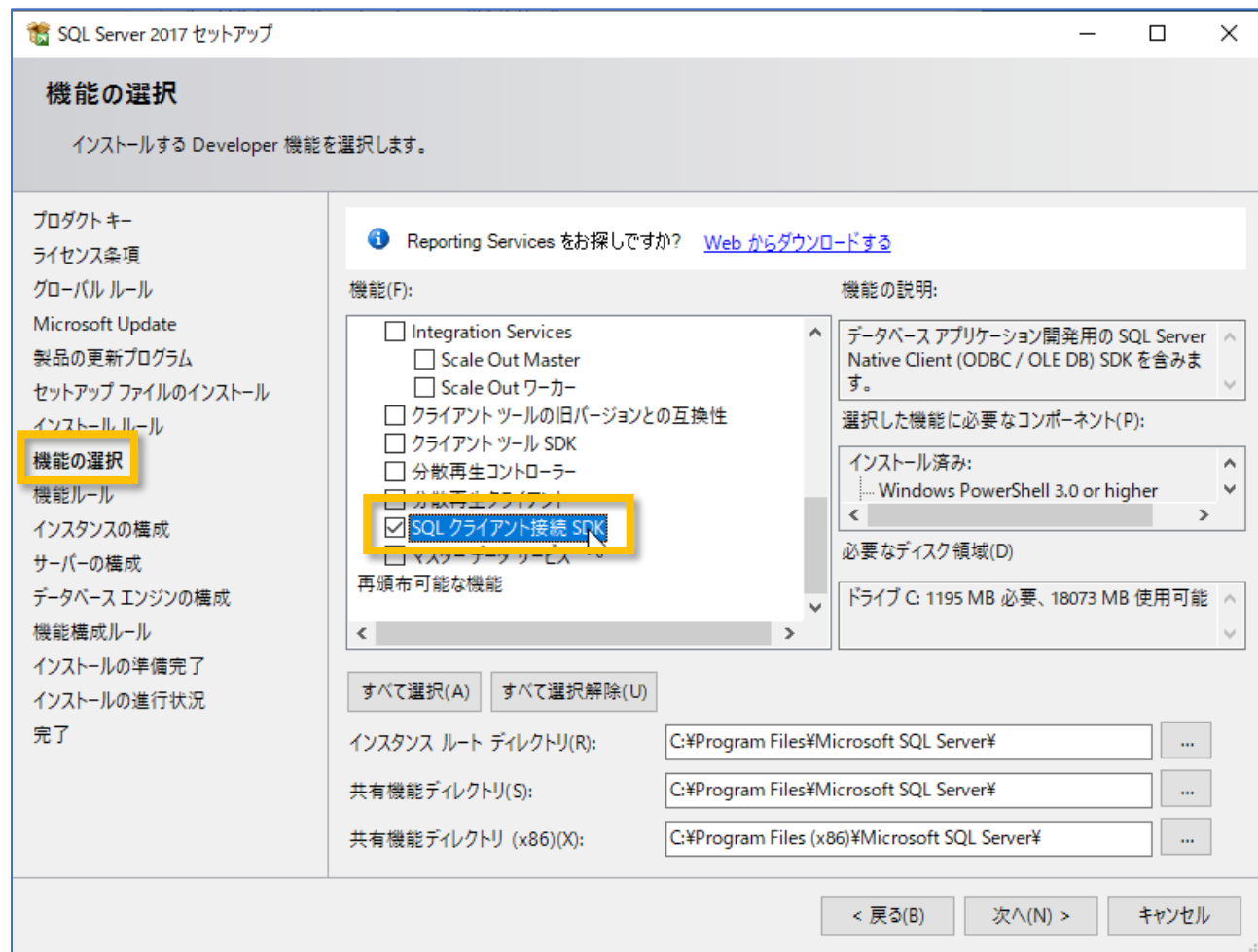
- 機能の選択ではOnTimeを稼働するのに必要十分な項目だけを選択します。これによりサーバーリソースの負担が軽減できます。
- [データベースエンジンサービス]をオンにします。

機能の選択2



- 2つめに[クライアントツール接続]をオンにします。

機能の選択3



- 3つめに[SQL クライアント接続 SDK]をオンにします。

機能の選択4



SQL Server 2017 セットアップ

機能の選択

インストールする Developer 機能を選択します。

プロダクトキー
ライセンス条項
グローバル ルール
Microsoft Update
製品の更新プログラム
セットアップ ファイルのインストール
インストール ルール
機能の選択
機能ルール
インスタンスの構成
サーバーの構成
データベース エンジンの構成
機能構成ルール
インストールの準備完了
インストールの進行状況
完了

Reporting Services をお探しですか? [Web からダウンロードする](#)

機能(F):

- ☐ Integration Services
 - ☐ Scale Out Master
 - ☐ Scale Out ワーカー
- ☐ クライアント ツールの旧バージョンとの互換性
- ☐ クライアント ツール SDK
- ☐ 分散再生コントローラー
- ☐ 分散再生クライアント
- ☒ SQL クライアント接続 SDK
- ☐ マスター データ サービス

再頒布可能な機能

機能の説明:

データベース アプリケーション開発用の SQL Server Native Client (ODBC / OLE DB) SDK を含みます。

選択した機能に必要なコンポーネント(P):

インストール済み:
Windows PowerShell 3.0 or higher

必要なディスク領域(D)

ドライブ C: 293 MB 必要、18073 MB 使用可能
ドライブ E: 902 MB 必要、121202 MB 使用可能

すべて選択(A) すべて選択解除(U)

インスタンス ルート ディレクトリ(R): E:\Program Files\Microsoft SQL Server\ ...

共有機能ディレクトリ(S): E:\Program Files\Microsoft SQL Server\ ...

共有機能ディレクトリ (x86)(X): E:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\ ...

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- 最後に各種インストールディレクトリを指定します。
- AzureVMなどをご利用の場合、OSドライブ以外へのアプリケーションのインストールが推奨されています。本マニュアルでは E:ドライブにインスタンスを作成しています。
- ディレクトリの指定がよければ [次へ] を選択します。
- [機能 ルール] では、全てのルールに合格した場合は自動的に次のページに進みます。

インスタンスの構成



SQL Server 2017 セットアップ

インスタンスの構成

SQL Server インスタンスの名前およびインスタンス ID を指定します。インスタンス ID は、インストール パスの一部になります。

プロダクトキー
ライセンス条項
グローバル ルール
Microsoft Update
製品の更新プログラム
セットアップ ファイルのインストール
インストール ルール
機能の選択
機能ルール

インスタンスの構成

既定のインスタンス(D) ☒
名前付きインスタンス(A) ☐ MSSQLSERVER

インスタンス ID(I): MSSQLSERVER

SQL Server ディレクトリ: E:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL14.MSSQLSERVER

インストール済みのインスタンス(L):

インスタンス名	インスタンス ID	機能	エディション	バージョン
---------	-----------	----	--------	-------

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- OnTimeと同じサーバーで実行する場合、OnTime の動作にインスタンス ID は依存しません。必要であればインスタンス IDを変更します。
- 本マニュアルでは規定のインスタンスのまま[次へ] を選択します。

サーバーの構成



SQL Server 2017 セットアップ

サーバーの構成

サービス アカウントと照合順序の構成を指定します。

プロダクトキー
ライセンス条項
グローバル ルール
Microsoft Update
製品の更新プログラム
セットアップ ファイルのインストール
インストール ルール
機能の選択
機能ルール
インスタンスの構成
サーバーの構成
データベース エンジンの構成
機能構成ルール
インストールの準備完了
インストールの進行状況
完了

サービス アカウント 照合順序

各 SQL Server サービスに別々のアカウントを使用することをお勧めします (M)

サービス	アカウント名	パスワード	スタートアップの種類
SQL Server エージェント	NT Service\MSSQLSERVER...		無効
SQL Server データベース エンジン	NT Service\MSSQLSERV...		自動
SQL Server Browser	NT AUTHORITY\LOCAL ...		無効

☐ SQL Server データベース エンジン サービスにボリューム メンテナンス タスクを実行する特権を付与する (G)

この特権は、データ ページの領域の解放を回避することによってファイルの瞬時初期化を有効にします。これにより削除されたコンテンツにアクセスを許可するため、情報の開示につながる可能性があります。

[詳細はこちらをクリック](#)

< 戻る(B) 次^ (N) > キャンセル

- サービスアカウントで[SQL Server エージェント]のスタートアップの種類を無効にします。

データベースエンジンの構成



SQL Server 2017 セットアップ

データベース エンジンの構成

データベース エンジンの認証セキュリティ モード、管理者、データ ディレクトリ、および TempDB の設定を指定します。

プロダクトキー
ライセンス条項
グローバル ルール
Microsoft Update
製品の更新プログラム
セットアップ ファイルのインストール
インストール ルール
機能の選択
機能ルール
インスタンスの構成
サーバーの構成
データベース エンジンの構成
機能構成ルール
インストールの準備完了
インストールの進行状況
完了

サーバーの構成 データ ディレクトリ TempDB FILESTREAM

データベース エンジンの認証モードおよび管理者を指定します。

認証モード

☒ Windows 認証モード(W)

☐ 混合モード (SQL Server 認証と Windows 認証)(M)

SQL Server のシステム管理者 (sa) アカウントのパスワードを指定します。

パスワードの入力(E):

パスワードの確認入力(O):

SQL Server 管理者の指定

ONTIMEDEMO\otdadmin (otdadmin)

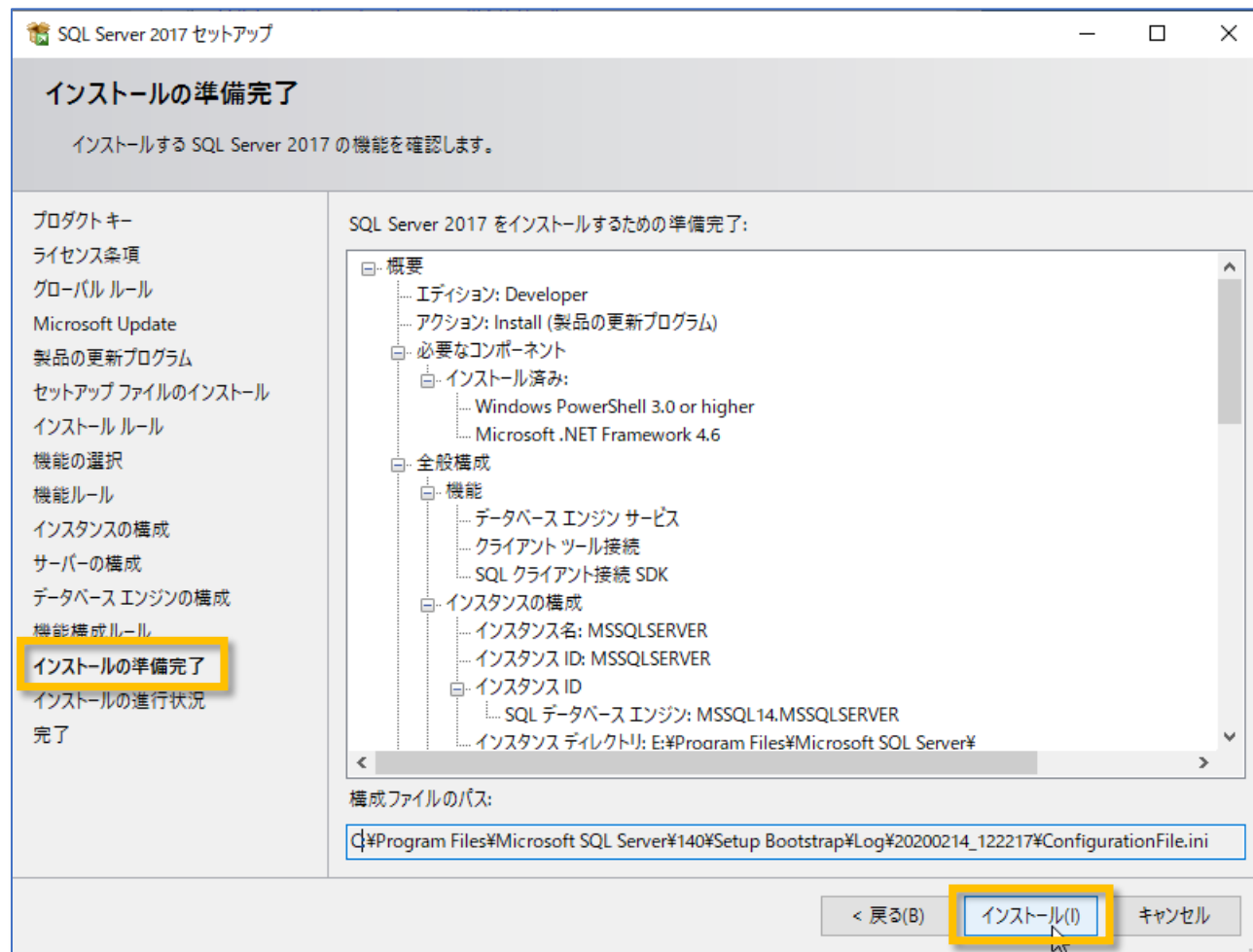
SQL Server の管理者には、データベース エンジンに対する無制限のアクセス権があります。

現在のユーザーの追加(C) 追加(A)... 削除(R)

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

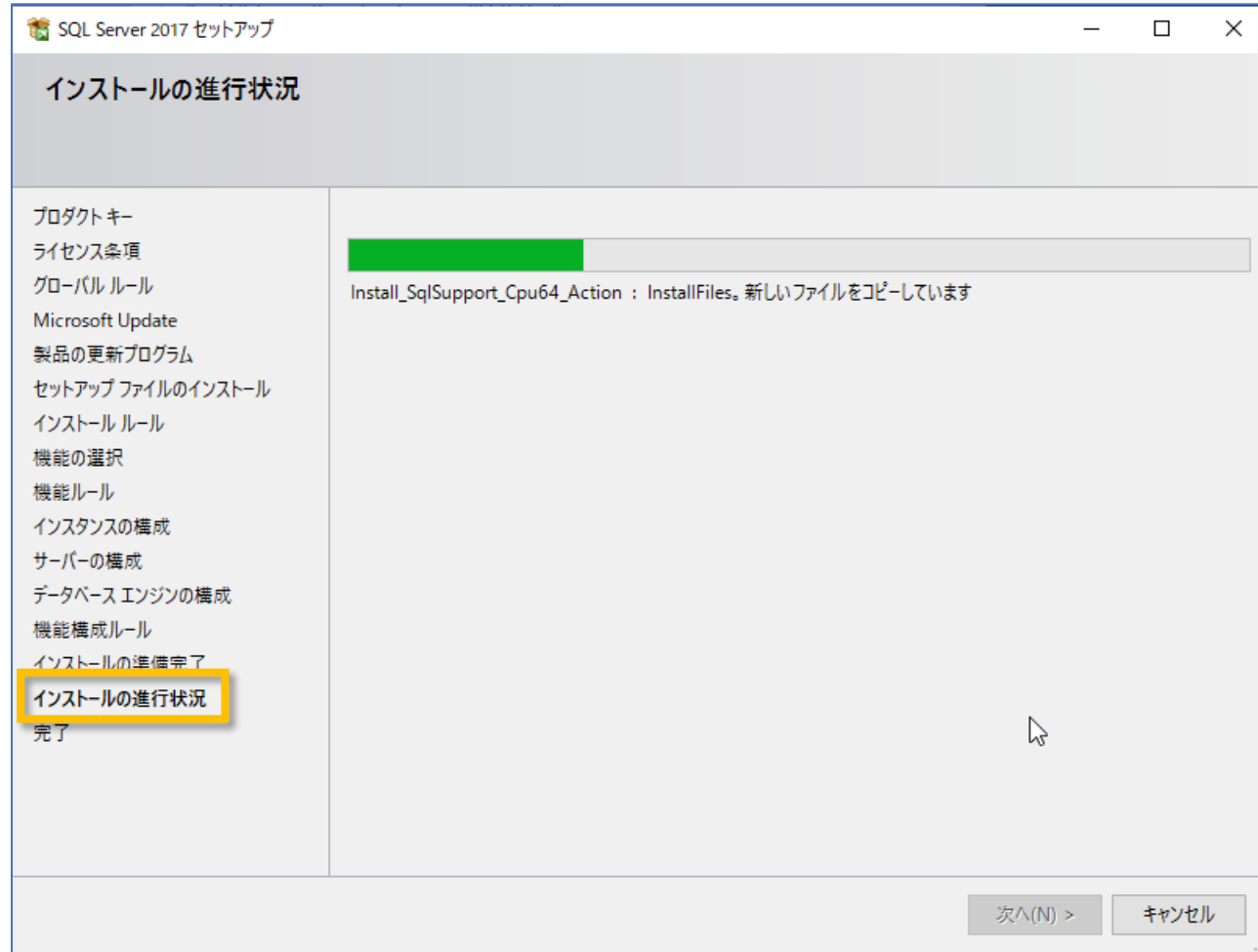
- サーバーの構成で[認証モード]は Windows 認証モードを選択します。
- SQL Server 管理者の指定ではSQL Server のインスタンスの 1 人以上のシステム管理者を指定する必要があります。SQL Server のセットアップを実行しているアカウントを追加するには、[現在のユーザーの追加] を選択します。
- その他のタブはそのままに[次へ] を選択します。
- [機能構成ルール] では、指定する機能がないので自動的に次のページに進みます。

インストールの準備完了



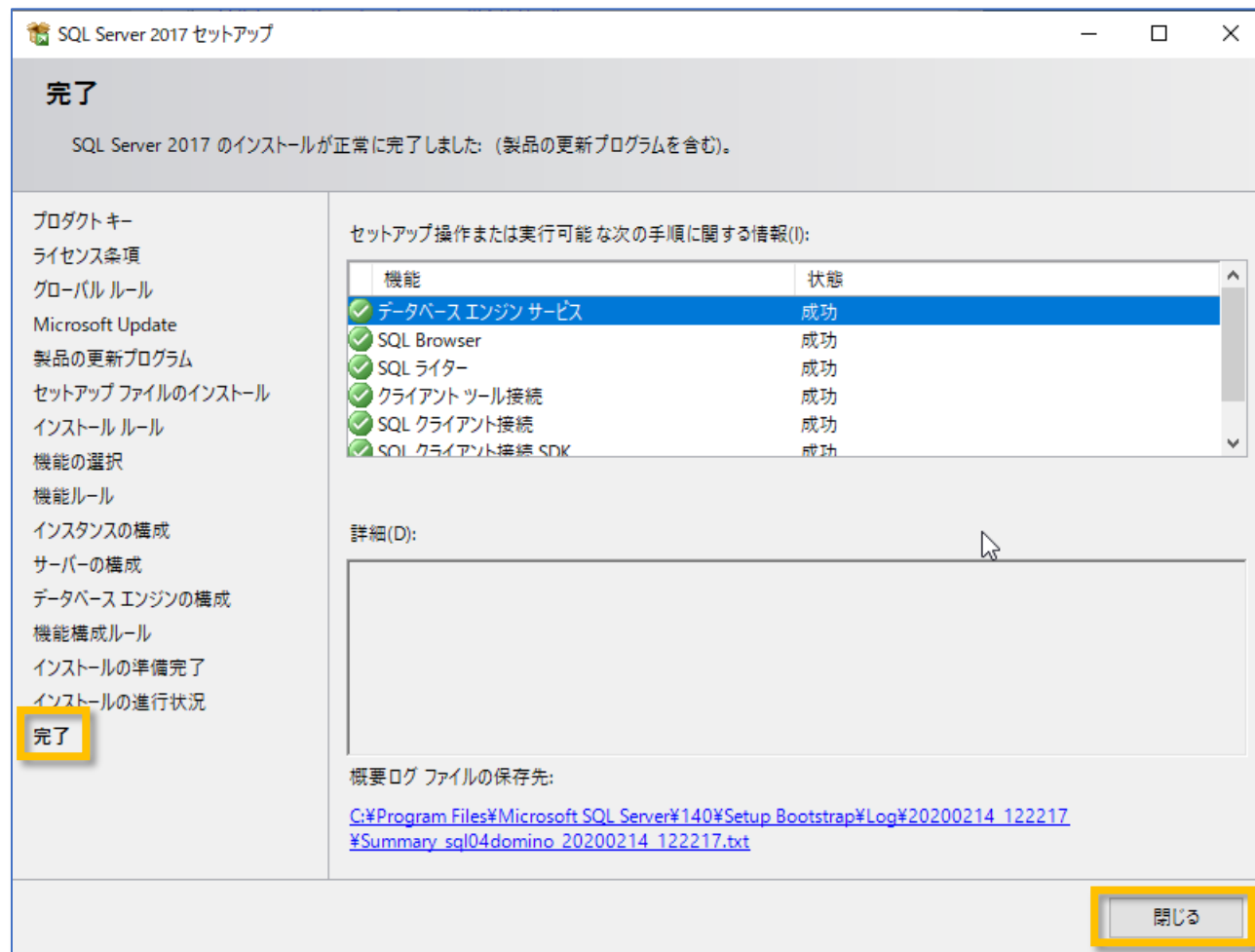
- セットアップで指定したインストール オプションのツリー ビューが表示されます。
- 続行するので [インストール] を選択します。

インストールの進行状況



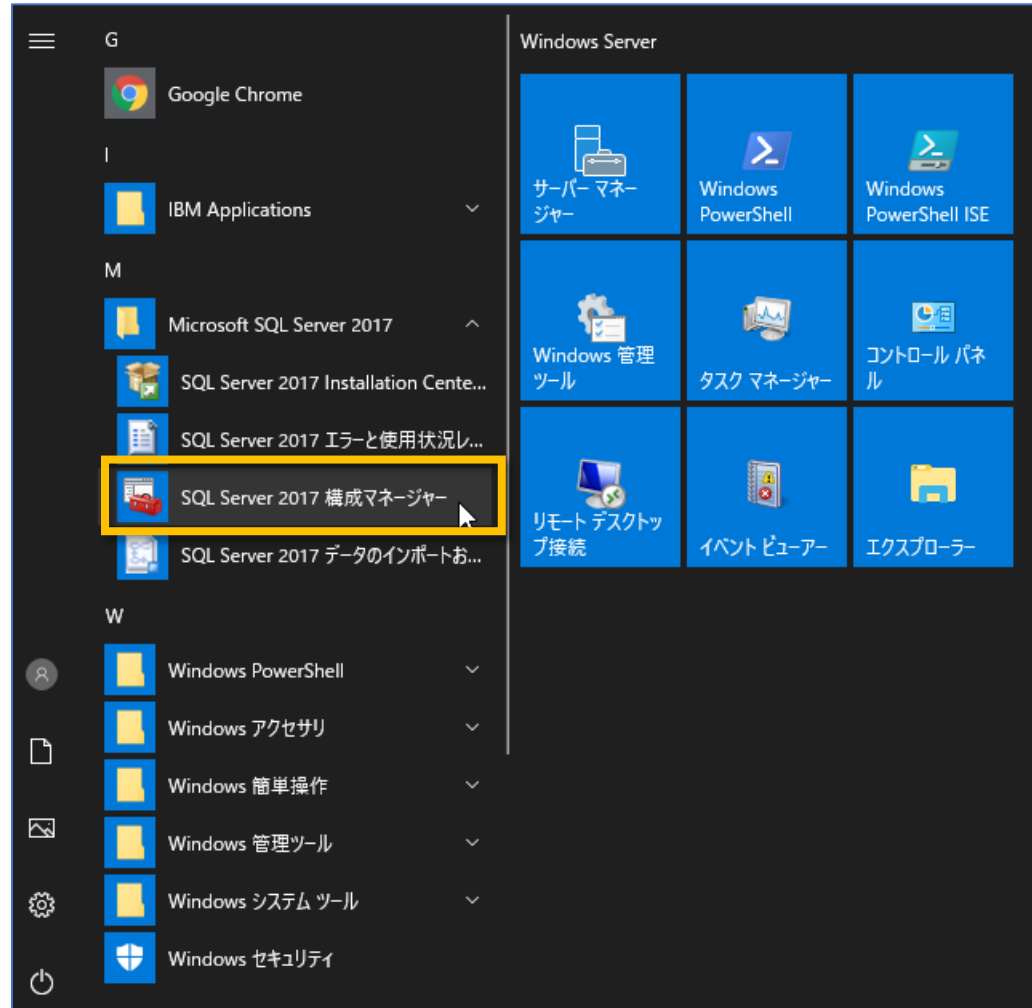
- インストールが完了すると画面は[完了]に切り替わるので待ちます。

完了



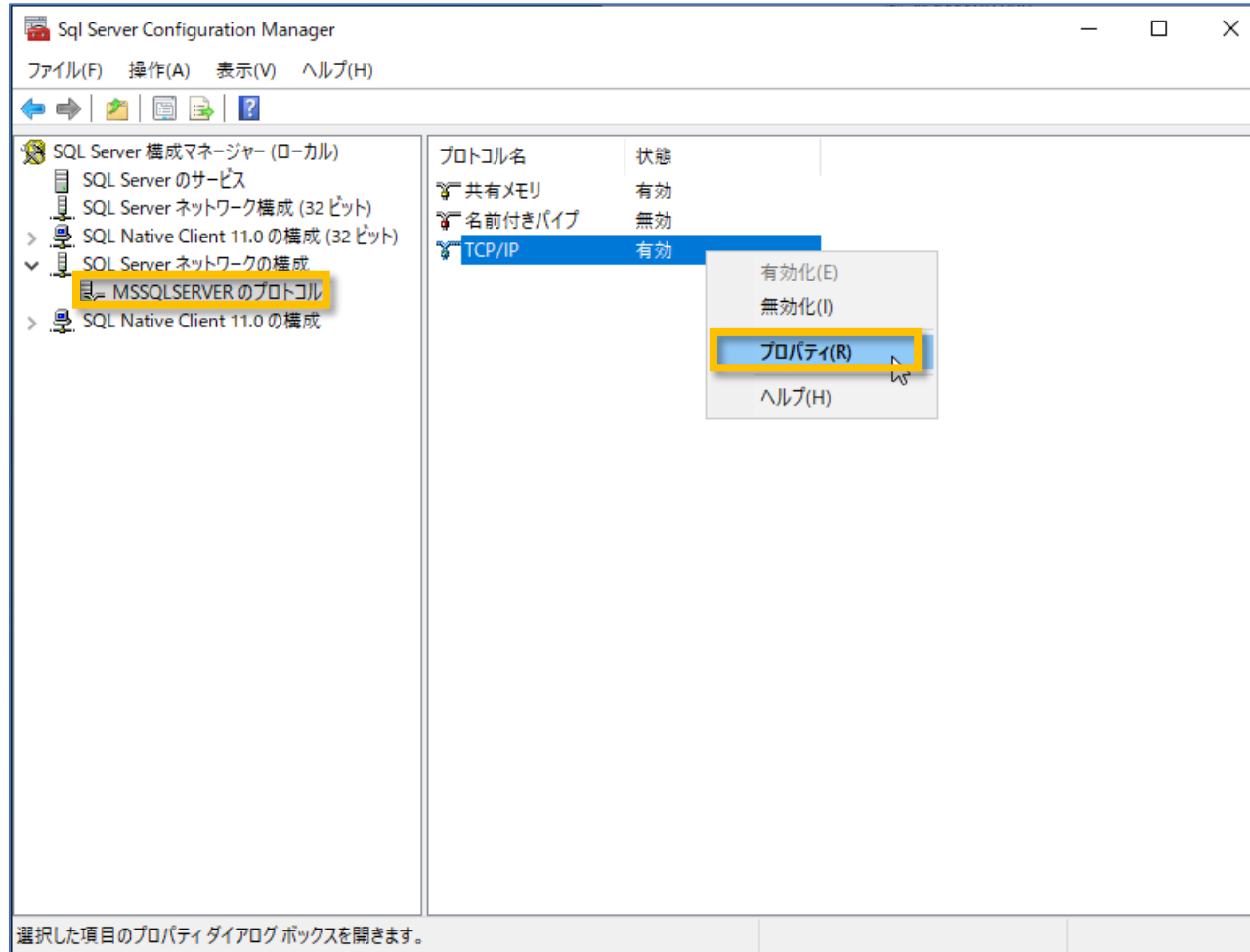
- インストールが正常に完了すると左図のような画面に切り替わります。[閉じる]を押して完了します。
- もし正常に完了しなかった場合は何かしらの不具合が発生しています。OnTimeのインストールを行う前に問題を解決してから作業を続行してください。

構成マネージャーの起動



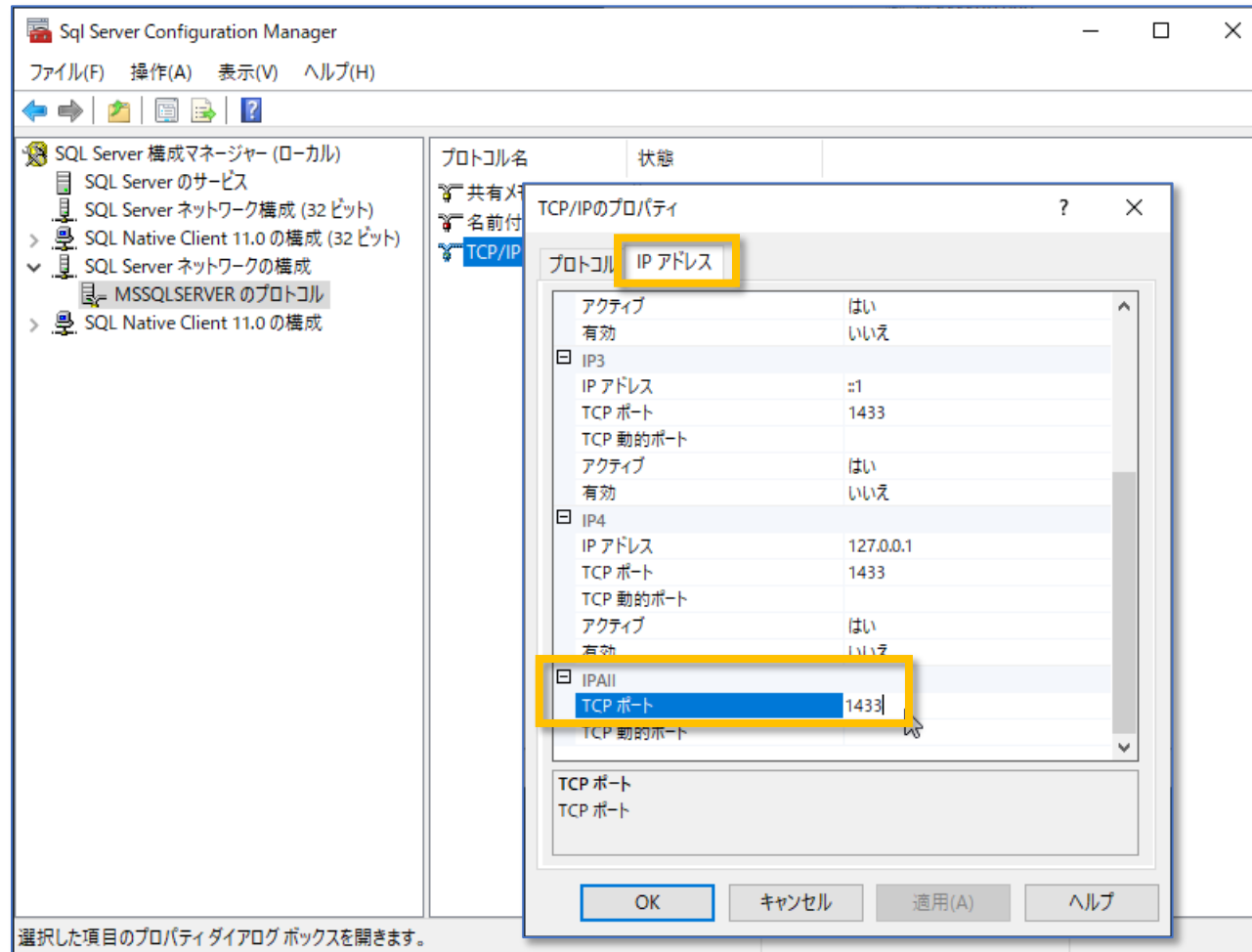
- 次にSQL Server 構成マネージャーを起動してポート設定を確認します。
- Windowsメニューから起動します。

TCP/IPのプロパティの修正



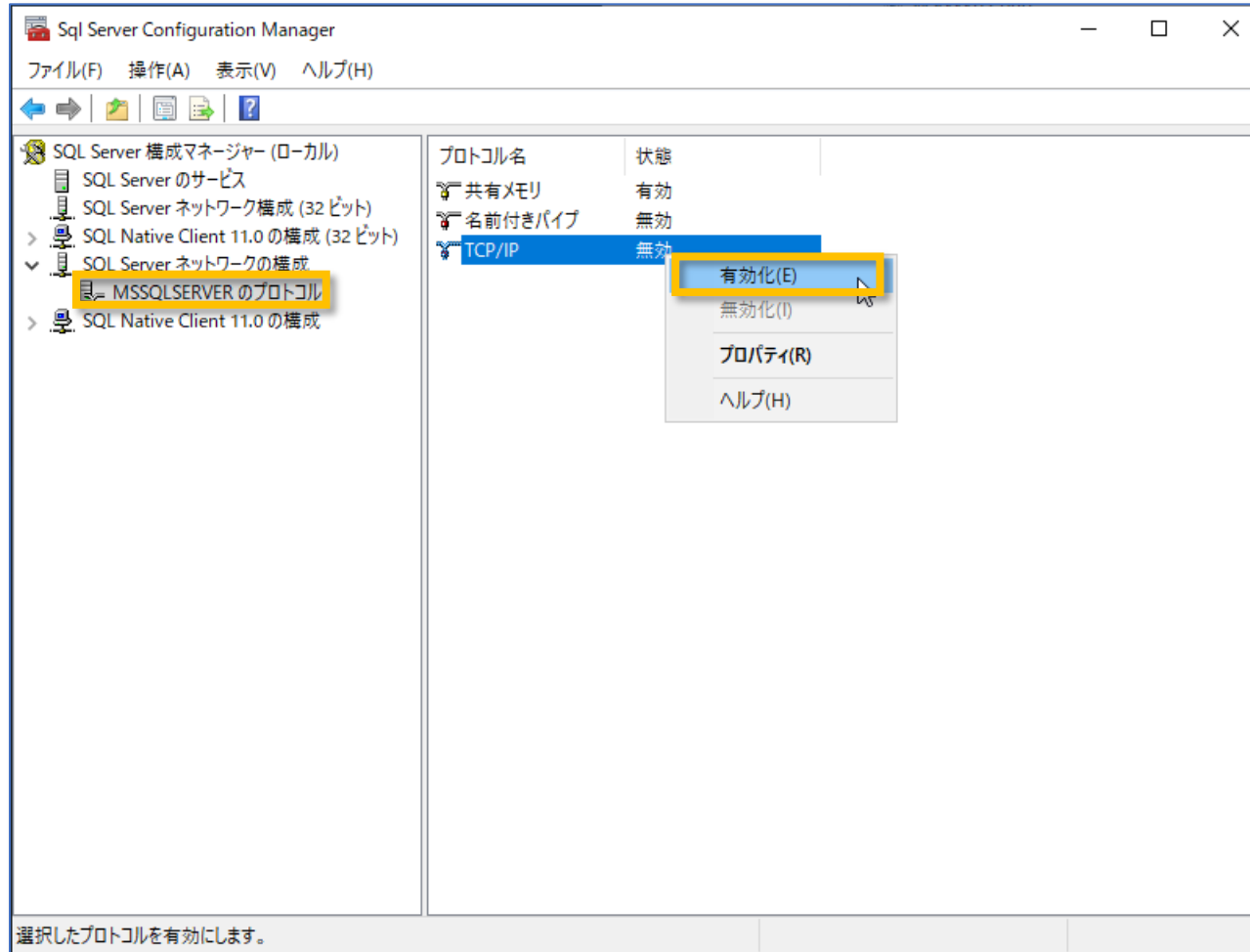
- 左図のように[SQL Server ネットワークの構成][[(インスタンス名)のプロトコル]]で右の一覧からTCP/IP]のプロパティを開きます。

“1433”を有効にします



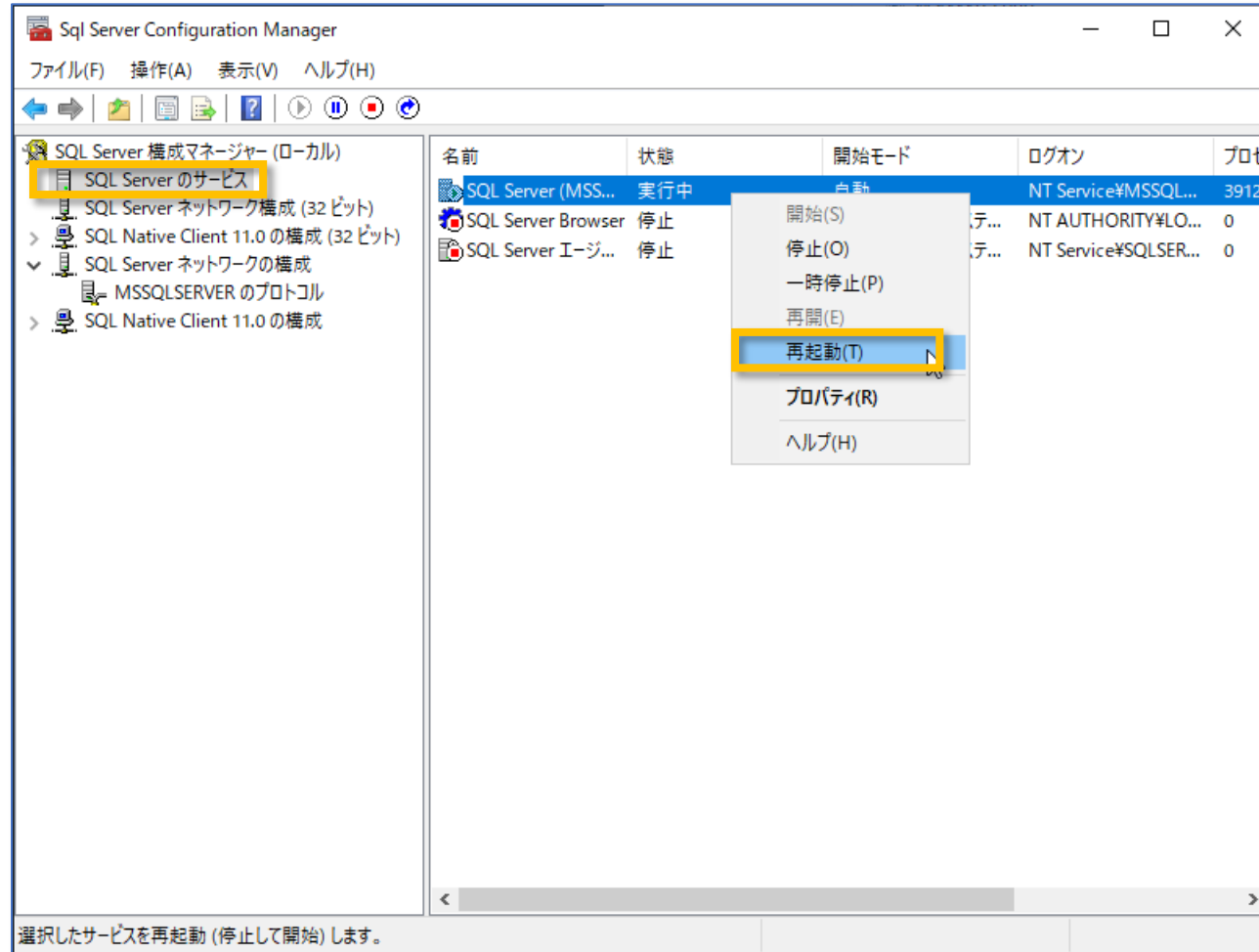
- プロパティで[IP アドレス]タブを開き、一番下までスクロールし、[IPAll][TCP ポート]の値を1433に設定します。
- 設定が完了すれば[OK]を押します。

TCP/IPポートを有効化します



- 再度[TCP/IP]を確認し[有効化]になっていることを確認します。

SQLのサービスを再起動します



- [SQL Server のサービス]に移動し、ご利用のインスタンスの再起動を実行します。
- アイコンが緑に替わることを確認出来ればSQLのインストールは完了です。
- 引き続きインストールマニュアルの「OnTimeのインストール」から作業を進めてください。